



特集

## 特 集

## 1 ふるさと環境フェア 2021

## (1) ふるさと環境フェアの概要

県では、展示や体験を通して、県民に福井の環境を守り育てることの大切さを考えてもらう機会を提供するため、企業・団体の皆様の協力を得て、ふるさと環境フェア（以下「環境フェア」という）を、平成 21 年度から開催しています。9 回目となる今回は、令和 3 年 11 月 23 日（火・祝）に福井県産業会館において、「未来へつなげるふくい（わ）の環（わ）～地球がたいへん！子どもたちの未来、あなたが動けば明日が変わる～」をテーマに開催し、当日は延べ約 8 千人の方に来場いただきました。

コロナ禍での開催となったため、多くの方々に安心して参加していただけるよう、ステージイベントを中心にオンライン配信も行いました。

## (2) テーマに込めた思い

地球温暖化に対する関心が世界で高まり、福井県でも 2050 年に二酸化炭素排出実質ゼロを目指しています。世界に誇れるこの豊かな「ふるさと福井の環境」を将来世代に伝え残していくためには、温暖化の急速な進行や影響に対する、わたしたちの意識の共有と対策の早期実践がこれまで以上に求められています。

地球温暖化を他人事ではなく自分事として認識していただくため、環境フェアでは、来場者の皆様が「未来の地球を守るために明日からできることをやってみよう！」という気持ちになっていただくことを目標として様々な企画を実施しました。

## (3) 環境フェア 2021 の開催内容

電気の仕組みを学べる人力発電ミニ新幹線、ソーラーライトを使った工作コーナー、海洋ゴミ問題の紹介やマイボトル運動啓発等のパネル展示など、盛りだくさんの企画となりました。また、燃料電池自動車への試乗希望も多く、関心の高さがうかがえました。



人力発電ミニ新幹線



燃料電池自動車の展示



パネル展示

## ① 出展ブース

来場者が見て、触れて、学んでいただけるよう、合計 53 の体験・展示ブースを設けました。発電の仕組みを紹介するブースや温暖化がお米に及ぼす影響を紹介するブースでは、親子で楽しく環境保全について学んでいただいた他、池田町の木材を使ったすべり台や木のおもちゃで遊べる「木望のゆうえんち」等の体験型ブースでは、たくさんの来場者に自然に触れていただきました。



発電の仕組みの紹介



気候変動に適応した稲の紹介



木望のゆうえんち

## ②ステージイベント

会場のメインステージでは、各企業・団体の環境保全活動の発表やエコチャレPRなど、多くのイベントを行いました。ここでは、そのいくつかについて紹介します。

### ア らんま先生 親子で楽しむ環境科学実験ショー

国内の様々な環境イベントで活躍するらんま先生の、「親子で楽しむ環境科学実験ショー」を開催しました。

地球環境へのメッセージが込められた、観客を巻き込んだパフォーマンスで、会場はたいへん盛り上がりました。



らんま先生

### イ 県内4カ所をつないだサテライト生中継

年縞博物館、ツリーピクニックアドベンチャーいけだ、六呂師高原、三国サンセットビーチの4カ所と中継を結び、それぞれから、現地の様子とともに環境活動等についてのお話をいただきました。年縞博物館からは、年縞からわかる地球の気候の変化の様子について、博物館に展示されている年縞の映像とともに説明していただきました。



年縞博物館 中継

### ウ エコチャレのPR

季節ごとのテーマを決めて毎月第3日曜（家庭の日）を中心に、県下一斉に省エネ行動に取り組む「エコチャレ」のPRを行いました。クイズを解きながら、電化製品の適切な使用方法のほか、エシカル商品や地元産の商品の購入、公共交通の利用など、CO<sub>2</sub>の排出量を削減するために自分たちが気軽に行えることの実践を呼びかけました。



エコチャレPR

## (4) これからの環境フェアが目指すもの

温暖化をはじめとした気候変動など、地球環境を取り巻く環境問題は深刻化しています。これらの問題は、メディアを通して知ることもできますが、実際に触れたり、体験したりと実感することが環境問題について考えるきっかけになると考えます。

このため、県ではこの環境フェアについて今後も継続していくとともに、環境保全の意義をしっかりと伝えることのできるフェアにしていきたいと考えています。

## 2 マイボトル運動のさらなる展開

県では、海洋へのプラスチック流出を防止するため、使い捨てペットボトルに代わり、水筒やタンブラーなどの利用を促進する「マイボトル運動」を令和元年度から展開しています。

令和3年度からは、さらにマイボトル運動を県民へ浸透させることを目的として、「マイボトル運動推進サポーター」制度を創設し、マイボトル運動のロゴマークも一新しました。

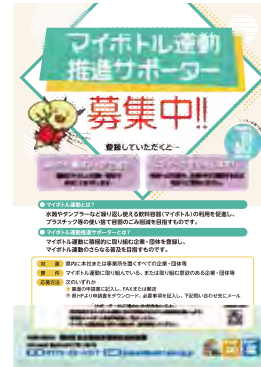
### (1) マイボトル運動推進サポーター制度の創設

マイボトル運動に積極的に取り組む企業や団体を「マイボトル運動推進サポーター」として登録しており、令和4年1月末時点で86団体の取組み内容を県のホームページに掲載して広く紹介しています。

サポーター登録企業・団体では、従業員へのマイボトル持参推奨のほか、お客様への呼びかけや給水機の設置などに取り組んでいただいています。



啓発ちらし



サポーター募集中ちらし



取組み (例)

また、令和元年度から、持参したマイボトル等に購入した飲み物を入れてもらえる県内の喫茶店やコンビニなどを「マイボトル運動協力店」として登録し、県のホームページで周知する取組みを実施しており、令和4年1月末時点で165店舗となっています。

ペットボトル飲料の購入が増える夏前の6月11日から7月11日と秋の行楽シーズンである10月23日から11月23日には、県内のショッピングセンターなど31店舗の協力を得て、マイボトルの専用コーナーも設置しました。

### (2) 新たなロゴマークの作成

「マイボトル運動推進サポーター」、「マイボトル運動協力店」、「マイボトル専用コーナー」のロゴマークを新たに作成しました。

店舗等にも掲示しやすいシンプルなデザインで色を選択できるようにし、サポーターや協力店舗が、名刺やポスターへの印刷、店舗への掲示などをしやすくしています。



サポーターロゴ (例)



協力店ロゴ (例)



専用コーナーロゴ (例)



### 3 年縞博物館「第2回日本博物館協会賞」受賞

年縞博物館は、平成30年9月に若狭町で開館した、三方五湖のひとつ水月湖の湖底から採取した縞々をなす泥の堆積層「年縞」を展示、解説する博物館です。

開館しておよそ2年半後の令和3年3月に「第2回日本博物館協会賞」の受賞が決定し、11月に第69回全国博物館大会の開会式において受賞しました。

#### (1) 日本博物館協会賞の受賞

日本博物館協会賞は、公益財団法人日本博物館協会が「日本の博物館の振興に大きく貢献し他の博物館の模範となる顕著な成果を挙げている施設を顕彰」する目的で、協会の創立90周年を記念し、令和元年度に創設されました。

第1回（令和元年度）は、ちひろ美術館（東京・安曇野）と北名古屋市歴史民俗資料館の2館が、第2回（令和2年度）は、年縞博物館が全国約5,700館ある博物館や美術館等の中から選ばれ受賞しました。



賞状と盾を受け取る山根一真年縞博物館特別館長（令和3年11月17日、第69回全国博物館大会にて）

#### ○年縞博物館の受賞理由

- ・45mの年縞スタンドグラス展示などデザイン性に優れた展示
- ・学術的・国際的に価値ある年縞の長年にわたる研究
- ・縄文博物館との共同展示など地域活性化への貢献 など

第2回日本博物館協会賞の受賞により、年縞博物館は令和4年度の全国博物館長会議（文化庁・日本博物館協会主催）でスピーチ・プレゼンテーションを行うとともに、クロアチア国ドブロブニクで毎年開催される国際博物館会議「The Best in Heritage」に日本代表として推薦される予定です。

#### (2) 今後の年縞研究の推進や博物館の魅力充実

立命館大学との共同研究により水月湖年縞の科学的な価値をさらに向上させるとともに、国内外に博物館をPRすることで、福井県の教育や観光に貢献していきます。また、地域と連携した特別展などのイベント・企画を定期的で開催し、地域の活性化やリピーターの確保にも努めていきます。

年縞博物館は開館後約3年間で9つの賞を受賞しており、各分野の専門家から高い評価を受けるとともに、インターネットのクチコミサイトなどでもナビゲーターによる案内・解説が来館者の満足度につながっています。

この受賞を励みに、今後も博物館の魅力充実をさらに進め、より皆様に満足いただける博物館となるよう、一層尽力してまいります。